

# 学校関係者評価委員会資料

## I 令和2年度重点目標と学校評価結果の関連

※前年度比5ポイント以上変動のあったものを中心にまとめました(カッコ内±は前年度比)

- 何を学ぶか 基礎・基本の知識技能の習得 探究的活動 主体的・意欲的な特別活動・部活動
  - 学ぶ意欲を引き出す授業 《保護者》83%(+5) 《生徒》84%(+14)
  - 国際理解教育による異文化理解 《生徒》70%(+11)
  - 進路に適した教育課程 《保護者》92%(+6) 《生徒》90%(+10)
  - 基本的生活習慣確立の指導 《保護者》91%(+7) 《生徒》91%(+10)
  - 活発な生徒会活動 《生徒》87%(+15) 《職員》97%(+7)
  - 有意義な学校行事 《生徒》86%(+5)
  - 読書に親しむ意識の涵養 《生徒》93%(+7)
  
- どのように学ぶか 主体的対話的で深い学び 新たに求められる資質能力 個別最適化のまなび
  - 進路目標明確化の適切な指導 《保護者》86%(+9) 《生徒》89%(+7)
  - 進路目標実現に役立つ課外講習 《生徒》85%(+12) 《職員》88%(+9)
  - 将来へ向けての適切な進路研究 《保護者》84%(+5) 《生徒》90%(+9)
  
- 何が身につくか 学習評価研究 自己の成長と課題を自らのことばで語る力
  - シラバス(学習の手引き)の活用 《保護者》87%(+9) 《生徒》78%(+15)
  - 役に立つ進路の手引き 《生徒》80%(+14) 《職員》85%(+9)
  
- 地域・保護者との協働 地域協働事業 学校・授業公開 視察・他校との交流
  - 保護者への適切な情報提供 《生徒》92%(+6)
  - 役に立つメール配信 《保護者》97%(+5) 《生徒》93%(+18)
  - 活発なPTA活動 《保護者》76%(-7) 《職員》72%(-16)
  - 進路に関する適切な情報提供 《保護者》80%(+8) 《生徒》89%(+10) 《職員》88%(-7)
  - 生活指導に関する情報提供 《保護者》91%(+9)
  
- 通いたくなる・働きたくなる環境づくり 通いたくなる学校づくり 働きがいのある職場づくり
  - いじめ取り組み方針の共有 《保護者》73%(+12)
  - ケガや病気への適切な対応 《生徒》90%(+7)
  - 教育相談体制の確立 《保護者》94%(+12) 《生徒》94%(+10)
  
- 学びの土壌づくり 安全・安心の土壌 多様性の土壌 本音の土壌 地域への橋渡し
  - 災害時の避難・連絡方法の周知 《保護者》89%(+7)
  - 交通ルール遵守の指導 《保護者》90%(+11) 《生徒》85%(+11)
  - 健康・安全資料の定期的発行 《保護者》96%(+5) 《生徒》96%(+11)
  - 清掃や環境美化の指導 《保護者》90%(+7)
  - 施設・設備の整備 《保護者》89%(+7) 《生徒》78%(+11)
  
- ◆特色ある学校づくり 《保護者》91%(+9) 《生徒》78%(+9) 《職員》94%(+1)
- ◆学校生活が充実 《保護者》92%(-2) 《生徒》91%(+1) 《職員》97%(-3)

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

### 【総務関係:保護者】

- Q1 学校として地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる  
 Q2 お子様の学校生活は充実している  
 Q3 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている  
 Q4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている  
 Q5 本校のメール配信は役に立っている  
 Q6 PTA活動は活発に行われている

### 【総務関係:生徒】

- Q1 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる  
 Q2 自分にとって、学校生活は充実している  
 Q3 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている  
 Q4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている  
 Q5 本校のメール配信は役に立っている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	①特色ある学校づくりについて 保91 生78 職94	A	新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休業や各種取組に制限が加えられたことで、当初の計画どおりの学校運営ができなかったが、「学びを止めない」ためのICT利活用や行事内容の工夫などにより、肯定的な評価の割合が前年比で増加傾向にある。さらに、地域とのつながりを深め、ニーズを見出し、協働的に学校の魅力化をすすめる態勢をつくりあげていく。	A	A
	②学校生活の充実について 保92 生91 職97	A	主体的かつ自律的な活動を通して、新しい社会を創造する人材育成に取り組んだ結果、保護者、生徒、教職員ともに肯定的な評価の割合が前年比で増加している。これからも生徒が各方面で活躍できるための「学びの土壌づくり」に取り組んでいく。	A	A
	③災害・非常時の対応について 保89 生85 職100	A	回答1・2の割合は、保護者[89%]、生徒[85%]、職員[100%]であった。本年度は新型コロナウイルス感染症により休校しなければならない時期があったが、スタディサプリ導入により授業の代替措置を行うことができたことが、ある程度評価されたようである。また、西翔暦が果たす役割も大きいと考える。	A	A
	④学校情報の伝達について 保88 生92 職94	A	回答1・2の割合は、保護者[88%]、生徒[92%]、職員[94%]であった。今後も石巻西高実況中継やHP、PTA広報などで学校の情報を伝え、発信していきたい。	A	A
	⑤メール配信について 保97 生93 職100	A	回答1・2の割合は、保護者[97%]、生徒[93%]、職員[100%]であった。休校期間中は、メール、スタディサプリを諸連絡などの際に有効活用できたと考える。次年度は、各学年ごとにメール配信が可能となるよう改善をはかる。	A	A
	⑥PTA活動の活発化について 保76 生 職72	B	回答1・2の割合は、保護者[76%]、職員[72%]であった。今年度はコロナ感染症拡大により、PTA活動が中止、縮小されたこともあり致し方ない評価であったと考える。次年度は活動の活性化をはかり、PTA会員の考え、意見を積極的に取り入れ改善していく。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【学習指導:保護者】

- Q7 お子様の学ぶ意欲を引き出し,学力を身に付けられるような授業が行われている  
 Q8 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して,異文化理解が深まっている  
 Q9 科目選択や学習の取り組み,評価規定の確認に関して,シラバス(学習の手引き)が活用されている  
 Q10 本校の教育課程や選択科目はお子さんの進路に適している

【学習指導:生徒】

- Q6 生徒にとって,学ぶ意欲を引き出し,学力を身に付けられるような授業が行われている  
 Q7 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して,異文化理解が深まっている  
 Q8 科目選択や学習の取り組み,評価規定の確認に関して,シラバス(学習の手引き)が活用されている  
 Q9 本校の教育課程や選択科目は自分の進路に適している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
学習指導関係	①学ぶ意欲を引き出す授業について 保83 生84 職97	A	学校評価アンケートの「学ぶ意欲を引き出し,学力を身に付けられるような授業が行われている」という項目に関しては,保護者データ(78%→83%),生徒データ(70%→84%),職員データ(95%→97%)といずれの項目ともに高水準で推移している。これは休校期間にスタディサプリや教員作成の独自動画の配信,また,休校明け以降もスタディサプリを活用して,学習習慣の確立や基礎学力の定着を目指したことが反映していると考えられる。	A	A
	②国際理解教育について 保70 生69 職78	B	「国際理解教育」に関する項目は,生徒データ(59%→70%),保護者データ(66%→69%),職員データ(76%→78%)ともに向上している。これはこのコロナ渦の時期に,国際理解委員会と教務部で企画した「国境なき医師団」今村医師の講演が印象に残っているからではないか。より一層の向上を目指して,国際理解委員会と検討していきたい。	A	A
	③シラバスの活用について 保87 生78 職84	A	「シラバスの活用」に関しては,保護者データ(78%→87%),生徒データ(63%→78%),職員データ(86%→84%)といずれの項目とも高い水準で推移している。1,2年生の科目選択の際に徹底して活用した。さらに休校期間中の学習とそれ以降の学習計画をとりまとめた,修正版のシラバスを再配付したことが影響していると思われる。	A	A
	④教育課程・選択科目について 保92 生78 職88	A	「教育課程や選択科目は生徒の進路に適している」に関する項目でも,保護者データ(86%→92%),生徒データ(63%→78%),職員データ(88%→88%)といずれの項目とも高い水準で推移している。現行カリキュラムが残り数年というところなので,このままで進めたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

**【進路指導:保護者】**

- Q11 お子様の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている  
 Q12 「総合的な学習の時間」などにおいて、将来へ向けての進路研究が適切に行われている  
 Q13 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている  
 Q14 進路に関する情報提供が適切に行われている

**【進路指導:生徒】**

- Q10 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている  
 Q11 「総合的な学習の時間」などにおいて、将来へ向けての進路研究が適切に行われている  
 Q12 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている  
 Q13 「進路の手引」は、役に立っている  
 Q14 進路に関する情報提供が適切に行われている

A 達成している    B おおよそ達成している    C あまり達成していない    D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
進路指導関係	①進路目標の明確化について 保86 生89 職94	B	8割を超える肯定的評価をいただいた。なぜその進路を選び、どのように生きるのかをはっきり述べられる生徒を育てるために、目標の明確化に至るプロセスを重視し、それぞれの進路目標を支えるライフプランや職業観に向き合う時間を確保したい。	A	A
	②進路行事・進路研究の適切さについて 保84 生90 職87	B	型別のガイダンスなど学校行事で足りない部分は今後も積極的に業者に協力をもらい活用したい。次年度は総合の時間と連携し、さらに充実したものにしていきたい。	A	A
	③課外講習について 保80 生85 職88	B	スタディサプリの導入、動画視聴、質問形式など様々な対応をいただいた。引き続き「教員が何を教えたいか」だけでなく「生徒が何をしてほしいのか」の視点を持ち、ミスマッチのない効果的な方法を考えたい。早期の対策として公務員課外講習を継続したい。	A	A
	④「進路の手引き」の活用について 保 生80 職85	C	利用を促す取り組みを積極的に実施したわけではないので担任の先生方が面談などで活用していただいた結果だと思われる。	A	A
	⑤進路に関する情報提供の適切さについて 保80 生89 職93	B	進路相談室の積極的活用を呼びかけ、生徒のニーズにあった環境整備と情報提供を今後も行っていきたい。プリントの掲示だけでなくホームページの活用による情報提供も考えたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

**【生徒指導:保護者】**

- Q15 生徒に対して,挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q16 学校として,いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
- Q17 学校として,部活動は活発に行われている
- Q18 学校として,生徒会活動は活発に行われている
- Q19 お子様にとって,有意義な学校行事がある
- Q20 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q21 生活指導に関する情報(懲戒規程・普通自動車免許取得・各種講演会開催・長期休業中の心得など)が提供されている

**【生徒指導:生徒】**

- Q15 生徒にとって,挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q16 学校として,日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
- Q17 学校として,部活動は活発に行われている
- Q18 学校として,生徒会活動は活発に行われている
- Q19 自分にとって,有意義な学校行事がある
- Q20 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q21 毎朝の週番集会は機能している

A 達成している    B おおよそ達成している    C あまり達成していない    D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
生徒指導関係	①基本的生活習慣の確立について 保91 生91 職91	B	基本的生活習慣の確立に関する指導が行われているものの,すべての生徒に浸透しているものとはいえない。さらなる意識改革が必要。	A	A
	②いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて 保73 生79 職97	B	教職員の意識の向上が求められる。	A	A
	③部活動の活発化について 保94 生92 職91	A	現在の本校の規模を考えるとよくやっていると思う。	A	A
	④生徒会活動の活発化について 保92 生87 職97	B	学校,生徒をよりよくしたいという気持ちが表れてきているが,具体策にかける。	A	A
	⑤学校行事について 保87 生86 職94	A	コロナ禍の中,様々な工夫,対策を講じて西翔祭・体育大会を実施したことが肯定的評価につながっている。	A	A
	⑥交通ルール遵守の指導について 保90 生85 職91	B	外部からの苦情が時々あった。生徒の安全意識向上に努める。	A	A
	⑦生活指導に関する情報提供について 保91 生 職94	A	今後もタイミングよく情報を提供していきたい。	A	A
	⑧週番集会について 保 生 職	A	今年度はコロナ禍でもあり実施しなかったが,週番各自が自覚をもって任を果たしていた。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【保健厚生関係:保護者】

- Q22 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている  
 Q23 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている  
 Q24 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している  
 Q25 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる

【保健厚生関係:生徒】

- Q22 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている  
 Q23 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている  
 Q24 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している  
 Q25 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
保健 厚生 関係	①健康の保持増進について 保92 生90 職100	A	コロナ禍対応の情報提供を的確に行い、校内での共有を図った。体調不良や怪我への対応も適切に行い、受診報告をした。 健康上の課題を焦点化し、生徒の自己管理力向上を図る。	A	A
	②教育相談について 保94 生94 職97	A	生徒と保護者をSCにつなげた支援を深めたところ、両者ともSCへの潜在的需要はあると思われる。 SCと教職員間の連携をさらに深め、相談体制改善を行い、利用しやすい環境整備に努める。	A	A
	③環境美化について 保90 生83 職81	B	委員会活動を通して環境美化の啓発を行ったが、定期的な活動には至らなかった。 実践できる場を広げ、恒常的な環境美化に努める。 清掃用具などの管理を徹底し、生徒と職員の意識向上を図る。	A	A
	④「健康・安全」の意識向上のための取り組みについて 保96 生96 職100	A	「保健だより」や受診報告を通じて、家庭での意識向上を図った。委員会活動を活用した働きかけを行った。 健康上の課題を焦点化し、各種疾病に関する効果的な情報提供を行う。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【図書関係:保護者】

Q26 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。

【図書関係:生徒】

Q26 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
図書関係	①読書指導について 保92 生93 職94	A	回答1・2の割合は、保護者[92%],生徒[93%],職員[94%]であった。多くの生徒が朝読書で読書への親しみを感じていることを裏付けている。限られた短い時間だけに、しっかりとした指導を行い、図書関係情報伝達、行事を実施し、更に意識を高められる工夫をしていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【事務関係:保護者】

Q27 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係:生徒】

Q27 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
事務関係	①施設・設備の整備について 保89 生78 職97	A	施設・設備の修繕については、2名の庁務職員により早期発見及び可能なものは修繕が図られており、職員の手には負えない場合は速やかに予算調整をして対応しています。 今年度は職員室のエアコン設置工事がありました。業者と職員室の連絡調整を行い、工期内に完了することができました。 今年度末から来年度にかけて教室のエアコン設置工事が予定されています。先生方の協力を仰ぎながら、業者との連絡調整を行い7月稼働の実現を目指します。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
①進路の手引きについて	今年度、生徒の評価は肯定的な回答が80%と、昨年の66%と比較すると、かなり進路の手引きが活用されてきている様子がうかがえる。次年度も今年度同様、進路活動の度に利用を促すなど、より一層の働きかけを行っていききたい。また、内容の改善も今後も継続的に行っていききたい。
②いじめ問題の取り組みについて	今年度も生徒の肯定的な評価が70%を越え、評価は徐々に上向き傾向である。生徒観察や生活状況調査等の取り組みが浸透してきたものと考えられる。生徒観察、生徒の情報収集・共有、生活環境調査、その他の対応策など、緊張感を持ちながら対応していききたい。
③PTA活動の活発化について	今年度はコロナ感染症拡大に伴い、PTA活動・行事はほとんど縮小、中止となり、評価は下がっている。次年度は新しい生活様式の中で、どのような活動・行事が可能か、PTA役員を中心に新たな内容のものも模索していききたい。